

(特別活動)

自ら考えて問題解決し 自他ともに認め合える 子どもを育てる

～ピア・サポート活動の実践を通して～

大阪市立中央小学校 池元喜久子・上里佳代

## 1. 研究主題設定の理由

社会が大きく変化しようとも、人として必要とされる学力、道徳心・社会性、健康・体力は変わらず、技術革新が絶え間ない社会では、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく新しい価値を創造する能力が求められる。また、変化の激しい社会を生きていくには、自尊感情を高め、人が人として生きるのに必要な規範意識や思いやりの心を持ち、他者や社会と関わることが必要である。そして、これらを身につけるには健やかな身体の育成が不可欠である。この知・徳・体の三つを柱とし、バランスよく育成し向上させていくことが学校教育に求められている。

これを受け本校では、「心身ともにたくましく、自らすすんで学ぶ、心豊かな子どもを育てる」を学校教育目標とし「考える子・やさしい子・がんばりぬく子」をめざす子ども像として教育活動を進めている。

昨年度までの3年間は、算数科を研究教科とし「自ら学び、意欲的に課題を解決しようとする子どもを育てる」ことに取り組み、問題解決学習を志向した5段階の授業展開の定着、算数的活動やICT機器を活用した指導法の工夫、算数科における言語活動の充実が図られた。その一方で、意見交流をもとに考えを練り上げることや自力解決に向けて行動すること、自分の思いを率直に伝えることは、更なる育成が必要であるという課題が明らかになった。

次期学習指導要領の改訂に向けても、「学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い」「基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるようにすることが重要」な視点とされ、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」の必要性が中央教育審議会に諮問されている。

そこで本年度から、学力向上の研究にプラスして集団育成の研究を行い、多様な集団における人間関係を構築する力をピア・サポート活動の実践を通して育てていくことにした。子ども同士が日々の支え合いを大切にし、自他ともに認め合える関係を築いていくことで、問題解決に向けて協働して学び合うことができるように、研究を進めていくこととする。

## 2. 研究の視点

「学び合う」「認め合う」「つなぎ合う」ことを大切に学年の実態に応じたピア・サポート活動を工夫する。

- ① 学年に応じたピア・サポート活動の工夫
- ② なかよしタイムの実践
- ③ 単元構成・活動の工夫

## 3. 研究の内容

ピア・サポート活動は、「学校教育活動の一環として、教職員の指導・支援をもとに、子

どもたちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育むために行う学習活動（日本ピア・サポート学会）」である。

研究にあたっては、「学び合う」「認め合う」「つなが合う」ことを大切して、学年の実態に応じたピア・サポート活動を工夫し実践を進める。そして、次につなぐ成果や課題を明らかにする。

① ピア・サポート活動の実施計画立案

教科・領域・行事・特別活動などに関連して各学年で実施計画を立案し、年間を通してピア・サポート活動を計画的に行う。

② なかよしタイムの実践

毎週水曜日 8:30～8:40 を「なかよしタイム」として設定し、楽しい体験活動を通して継続的に集団育成を行う。

③ 元構成・活動の工夫

学年の実態に応じた単元構成や活動を考えるにあたって、実施の枠組みを決定し、ピア・サポートプログラムの4つの学習過程に合わせて、具体的な計画をたてる。

#### 4. 研究のまとめ

##### (1)研究の成果

- ・ 自分から友だちに関わろうとする子どもが増え、友だちに対しての肯定的な声かけが日常的にみられるようになってきた。
- ・ 困っている友だちに気づき、自分から声をかけてサポートできる子どもが増え、もめごと自分たちで解決しようとするようになってきた。
- ・ 小集団の固定化がゆるみ、いろんな友だちと話すようになってきた。
- ・ たてわり班活動では、自然と手をつなぐ、優しい声をかける等のペア同士の仲が深まった。
- ・ 高学年の下級生に対する優しい声かけが増え、リーダーの意識がでてきた5年生と共に班活動を進めようとする6年生のよい連携が図られようになってきた。中学年も班でまとまる意識が芽生え、高学年のサポートに気づくようになった。

##### (2)今後の課題

- ・ 学んだことを繰り返し活用し、円滑な人間関係を築いていけるようにする。
- ・ サポートの方法を学び友だち同士でサポートし合えるピア・サポート学習を続ける。
- ・ 日々の学習や生活で、児童相互の認め合い・つながり合いの促進を継続する。
- ・ 日常生活の中から、問題場面を取り上げ、よりよいサポートの仕方を考えていく。
- ・ 「なかよしタイム」のゲームを工夫し、他者理解・自己理解を深めていく。
- ・ うまくリーダーシップがとれない児童の経験値を高めるため、学級会の時間に役割を交代しながら進めるなど多くの役割を経験できるようにする。
- ・ サポートは何かを考えさせていくことで、サポートの質を上げる。
- ・ ロールプレイをして良かったところを交流し合うなど、ロールプレイの活用の仕方を工夫することで、児童の気づきを促進する。
- ・ 他者理解とともに自己理解も深め、自尊感情を育てるようにする。
- ・ 指導者側の研修を深め、児童の一人一人に寄り添えるようにする。
- ・ グループングを工夫する等して、Q-Uの結果を学級経営に活かす。